

全佛通信

No. 8 七月号

発行所 東京都中央区築地3-1
(本願寺内) 全日本仏教会
岩野 眞 雄 堅
編集人 柳 了
印刷所 栄昌堂印刷工業株式会社
購読料 一部12円 1ヶ年分 150円(送共)

ビルマ遺骨収集事業すゝむ

二十萬遺族の悲願に應えて！

いよゝゝ慰靈會の發足へ

ビルマ方面に出動した兵力は約三十万といはれ、このうちビルマの山野に散つた戦死者の数は二十万とあるが、終戦以来十年すでにビルマの国交も回復したにも拘らず、その半数が今尙放置されたまゝになつてゐるので、はやくこれらの遺骨を温い遺族の手にかへそうと各方面から熾烈なる要望と二十萬遺族の熱願がかない遺骨収集を促進し、政府のこの事業に全面的に協力しよう、全日本仏教会や日赤、遺族会等が中心となつて「ビルマ戦没者慰靈會」が設立され、近く衆参両院の引上委でも、本問題が採上げられる予定で少くとも雨季あけの十一月ごろには実施される予定である、これら戦没者のうちには壇信徒が数多く、仏教徒の責務として、全国寺院仏教徒の一層の協力が望まれている。

ビルマ戦没者慰靈會設立については予てから各関係団体及びこれに協賛する衆参両院議員による準備委員会で再々協議され、その準備全くとゞのい、去る六月一日午前十時より總理大臣官邸大広間において設立準備發起人会が両院議員、関係各団体より二百五十余名参集の下に盛大に行われた。

先づ市原了氏の司会で参院議員安井謙氏の開会の辞についてビルマ戦没者の靈に對し全



われら仏教徒の願いとすると、世に一人の恵まれぬものもなく、また一人の迷ふものもないことを期するにあります。

この世の中に生をうけているものは、すべて互に相たすけ相よつて存立し、その目的は永遠の覚路を定める所にあります。その覚路の定まるどころおのずから平和実現の基礎を開くことゝなります。

われら仏教徒はこの理想のもとに、それぞれの信託をもつて立つものであります。未だ

「全佛會長のメッセーヂ」

その実現の遠いことを憂ひこれが努力に日夜心を砕くものであります。

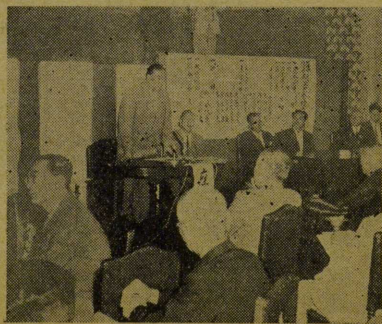
全日本仏教会は宗門各派、仏教諸団体の連携による全一的機構を以て、その願ひの実現を計つております。

今回不肖はからずも會長に選ばれ、任務の重大であることを思い、力の及ばないのを憂えるものであります。

幸い発足以来、前任各位の御努力により、その目的は国の内外に果されつゝあります。

いま會長就任に際し日本全国の仏教徒諸賢の理解ある御協力をいただき、その責任を果したいと決意する次第であります。

大谷 光照



【寫眞】ビルマ戦没者慰靈會設立準備發起人の席上挨拶する川崎厚生大臣(首相官邸にて)

ため發会式までのあいだ実行委員と会務担当者をかきめ、地方における運動は都道府県知事日赤各支部、府県仏教会、遺族会の県連台会等があたること、七月十九日來日のビルマ首相ウー・ヌー氏を迎えて歓迎と感謝の大会を開くこと等を決定した。引續いて益谷衆院議長、重宗参院副議長や川崎厚生大臣の力強い所信を披瀝した激励のあいさつがあつたが、

特に厚相は「ビルマの遺骨収集は西部ニューギニヤ・ボルネオなどにもできるだけ早く行いたい。この会の発足で同計画が促進されることは喜びにたえない」と述べ海外戦没者慰靈委員長安藤正純氏、自由党草葉隆田民主党橋橋渡、社会党受田信吉の各氏が祝辞を述べ、遺族を代表して十八年四月令息善四郎さんを失つた辻ユミさん(六五)、二十年七月夫稔さんを失くした佐藤芳江未亡人が涙ながらに遺骨返還の悲願を訴えた。

またビルマに転戦し多くの部下を失い戦友の遺骨を一日も早く慰めたいとの運動に日夜挺身している中馬辰猪代議士「鹿児島出身の切々と真情を訴えてのあいさつが全員に深い感銘を与えた。最後に全仏友松事務局長の開会の辞をもつて十一時四十分有意義なる発起人会は盛會裡に終了した。

尙当日は日蓮宗小松総長、豊山派鶴橋総長や全仏の友松総長、北畠、中山両局長、高野山の上田天瑞氏や仏婦連、国際委員等多数の仏教関係者が出席した。

ビルマ首相七月に來日

歓迎國民大會で厚意に感謝……

ビルマ首相ウー・ヌー氏は目下欧米諸國を歴訪中であるが、来る七月十九日には我が國に來訪するよう日程が組まれている。同首相には、昨年十二月の才三回世界仏教徒會議で訪緬の際、日本代表が非常な歓迎をうけまた今度の留學僧十三名のビルマ派遣についても懇切な指導と世話をうけているので、全仏では、これを機会に感謝の意を表すると共に、更に來るべきビルマ戦没者遺骨収集事業を完遂するためにはどうしても同首相をはじめビルマ政府の全面的な協力と便宜供与をうけなければ不可能なので、これについての懇請をも行おうとしている。このため全仏で来る七月十九日午後二時より同首相歓迎國民大會と慰靈法要が築地本願寺に於て開催されるので事務総局で、目下その企画と諸準備が進められその盛況が予想される。

ビルマ戦没者慰靈會設立の趣旨

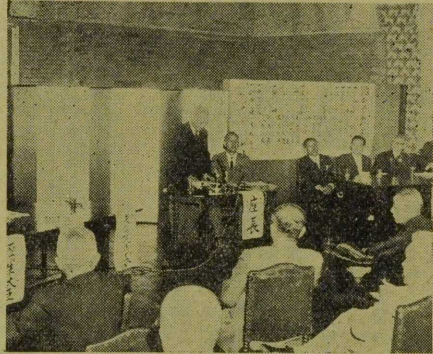
太平洋戦争の悲惨極まりなき戦場の一つとして、ビルマの山野には二十方に垂んとする、同胞の遺骨が今尙長恨の風雨に曝された仮放置せられて居ります。

戦後十年、日緬の国交は既に回復し賠償問題も、大綱を協定せられたる今日、此等同胞の遺骨収集慰靈に關する終戦処理は國家として一日も速やかに実施せらるべきであります。此の事は太平洋戦争を通じ、アジアの解放を夢みて散華した戦没同胞の遺徳に応え、遺族戦友は因より一般國民に對し、過去のビルマ國に於ける愁風悲影を一扫して清新なる兩國共榮の精神的支柱たらしめ、外ビルマ國民に對しては、平和と人類愛との強固なる、宗教的共感の上に兩國國民の眞の提携親善を樹立す

広大なる會での太平洋戦域に於ては、誠に遺憾な尙遺骨放置の戦場を多く数へ得るのであります。ビルマ國內の情勢は今や兩國國民の協力の上に既に可能の段階に至りますと共に、我が國內に於けるビルマ遺骨収集慰靈の早急実現に對する熱意と機運は將に高揚せられつつあります。

然し乍ら広地域に亘る大陸の遺骨収集は我が國にとつて最初の事でも有り、且遠隔の地である為、之が接渉並に準備は到底個々の団体に於て完璧を期し得ないものがあります。従

來各種の団体が夫々其分野に於て遺骨収集慰靈に關し最大の努力を傾倒して参りましたが前述の諸情勢に鑑み、茲に吾々は特に「ビルマ戦没者慰靈會」を設立して凡ゆる団体党派を超越し、政府並關係諸機關と緊密なる連繫の下に、凡ゆる障礙を



準備の立役者として、ビルマ戦没者慰靈會設立の趣旨を説明するウー・ヌー首相の演説の場面。

克服して此機運を正しく育成發展せしめ、國家國民の総意の上に一日も速に此が完結を期せんとするものであります。各位に於かれましても何卒向後本會の使命達成に衷心より御賛同下され、温い御協力を賜らん事を切に御願ひ申上げる次第であります。

「益谷衆議院議長」のあいさつ

終戦以來十年、今や祖國再建の業略々なりかつての不自由な生活は既に憶出話となつたにもかゝらず、遠くビルマの山野には約二十万柱の、日本兵戦没者の遺骨が風雨にさらされたまま、放置されているのであります。身を挺して國難に赴き、勇戦奮闘して貴い

生命を國家に捧げられたこれら戦没者の英靈を、未だに故國にお迎へする事のできないのは、固より遺家族の方々にとつては堪え難い痛恨事であり、更にすべての國民にとつても傷心やる方ないことなのであります。諸種の困難な事情の為に空しく十年の年月は流れて去つたのであります。

國際委員會開かる

去る六月十日午後三時より全仏事務総局に於て本年度初の國際委員會を開催し、ビルマ派遣留學僧経過報告、英文仏教百科辭典編纂事業経過報告及びビルマ戦没者慰靈會等についての委員會の態度を協議、其他この七月中旬に來日するビルマ、ウー・ヌー首相の歓迎

セイロン仏教大學長來日の接待、來年五月七エサカ祭に日本巡拝團参加要請の件等を検討した。

今日關係各位の御努力により、漸く前途に曙光を認め、ここに全日本仏教會をはじめ各種団体が中心となつてビルマ戦没者慰靈會設立の準備會が開催されるはこびとなりました事は、多年の胸中のしこりがほぐれた思ひで誠に感激に堪えないのであります。然し何分ビルマは遠隔の地であり遺骨の収集にも幾多の困難が伴ふことと存じますので、各位におかれては、協力一致、一日も早く英靈を遺族の方々の胸に帰還せしめられるよう、一層の御尽力を重ねられん事を切に御願ひ致す次第であります。

本日のビルマ戦没慰靈會設立發起人會にあたり、一言所懐を述べて御挨拶といたしま

昭和三十年六月十一日

衆議院議長 益谷 秀次

日本代表をセイロン

ウエサカ祭へ

明年五月セイロンに於て仏滅二千五百年を紀念し、國家的に盛大なウエサカ祭が舉行される事になつて居るが、この程全仏あてに書簡が到着し、日本の巡拝團の参加を要請して來たので、この要請に答えるため、全仏では早速具体的に策をねることになつた。

なお当日の出席者は委員長伊藤述史氏をはじめ山本貞吉、福島弘、小谷徳水、増永靈鳳、星野俊英、榎井榮章、勝泉外吉、小谷淡雲の諸氏と事務局側から中山局長、柳部長、松濤主事が出席した。

日本留學僧ビルマで盛大な歓迎

さる五月十九日午後十一時三十分羽田空港を發つた全仏派遣のビルマ留學僧一行十三名は、途中台北、台南、香港、碧谷、を経由し二十一日朝無事ラゴヤナに到着した。

ウー・ヌー宗教大臣、ウー・チョーニエン工業大臣夫人（ビルマ仏教婦人會會長）、ビルマ仏教會長ウエウイン卿、副會長ウーティンモン大審院長、事務局長ウーチャントン大審院判事同夫人及びビルマ側僧侶、尼僧代表その他多数の盛大な歓迎を受け、一路ラングーン郊外のパラゴヤーナホテルに到着した。一行は連日の如く各仏教會、大使館主催の歓迎會に出席し、正式に得度を受けるのは七月頃と思われる。（矢放副団長より）

聴講と討議を主として

正しい佛教者の在り方を求める

講習會 内容決定

全仏主催才二回中央講習會は、既報(本通信七号所載)の趣旨にもとづいて事務総局で準備を進めて来たが、講師、内容が次の如く確定したので、加盟各宗派、団体地区仏教会学校等に連絡、本講習會を成果あらしめるための協力を要請している。

講習會は中村元「世界思想に於ける仏教」上原專祿「現代の僧風について」の両講師によつて、世界的視野に立つて仏教を正しく捉え、その担い手である仏教者の現代に於ける在り方を追求すると共に、佐藤功講師「憲法改正問題の考え方」によつて当面する大きな課題である憲法問題について仏教者としての態度を打ち出すための基礎を学びとり、阿部眞之助講師「現代の日本」で我々仏教者の置かれて居るこの日本の情勢について多面的な検討を加える。また、このような広い視野に立つと同時に知切光蔵「放送文芸と教化」、権藤四立「現代教化と音楽」内山憲尙「児童教化の実際」の諸講師によつて具体的な教化策をも明らかにしようとしている。

更にこれら諸講師の講義を聞くこと、平行して、各種のテーマを設け夫々の問題の権威者を中心発言者に招いて座談討議を行い、それにより諸問題についての態度と実策を打ち建てるようにしている。

因みに、座談討議のテーマと中心発言者は次の通りである。

- 青少年問題(内山憲尙、北村大栄、猪俣興一、紀野一義、山本杉、米山久) 新興宗教問題(大石秀典、執行海秀、中濃教篤) 憲法問題(松本徳明、伊藤述史) 宗教法人法問題(文部省井上事務官) 全一佛教運動(全仏事務総長、局長) なお講習會期間中、各

宗派、加盟団体教化資料展、高僧墨蹟展が開かれ、七月二日には講義終了後地方からの参加者を中心として、バスで都内新施設著名寺院見学が行われる。

重要事項を協議

全佛の常務理事會

ビルマ遺骨収集についての話しが急速に進んだ為、全仏の態度について種々協議する事が必要になり、去る六月八日午後三時より、築地本願寺才一控室に於て緊急常務理事會が開催された。当日は佐々木理事長外十一名の常務理事が出席し、中山国際局長の説明を中心にビルマ遺骨収集に関する件を協議し、基本的には可能な限り協力することとするが、尙調査と検討を進め、具体的問題の処理は、事務総局に一任することに決定した。

組織の確立と活潑な傳道を

七月二・三兩日府縣佛代表者の會同

全仏では本年度の運動目標の才一に「全国地区仏教会の組織化」(本通信六号所載)を掲げ、来る七月一日よりの中央講習會もこの方向に沿つて企画されたが、全国各地の仏教者を結集するこの講習會を機に、来る七月二・三の両日に亘り全国都道府県仏教会代表者會同を開くことが決定され、去る十四日全国に通達が出された。本會同では地方教化活動促進に関して意見を交換して方策を立てる

英文仏教百科辭典編纂への協力の件、寺院解放農地に対する国家補償要請に関する件等の諸問題について慎重なる協議がなされ、午後五時半閉会した。

当日の出席者 佐々木泰翁、友松円諦、鶴昌清、前田宥昶、栗本俊道、岩野真雄、中山理々、堤敏郎、三谷会祥、(小松淨祐代理) 廿樂義恭、(阿部龍傳代理) 山本杉、安藤寿雄

「農地解放寺院

國家補償に関する決議

先年農地法及び自作農創設特別措置法に依りて、農地は解放せしめられたが、全国八万の寺院の所有せる解放農地は数十万町歩に及び爾後各寺院は其の教化活動に、勿論維持運営等に一大支障を生じ、或は衰微の一途を辿る事を余儀なくされて居るものもある現状に鑑み、全国地主の解放農地に対する國家補償運動に呼応して、各宗教檀信徒總會に於ても此の問題をとりあげ、仏教界の統一ある運動に展開せしめる氣運が醸成されつゝある。即ち去る五月十日、真言宗豊山派の全國檀信徒總會に於て、五月廿六・七日の曹洞宗檀信徒中央集會に於て、夫れん之が決議を行い、衆参兩院議長、大蔵省、文部省等関係官庁に陳情請願を行った。尙日蓮宗を始め各宗派について此問題がとり上げられる事になつて居る。

と共に、各府県仏教会の全仏への加盟促進の件、地方団体負担金に関する件等につき協議が行われることになつて居る。

正式加盟の府県仏教会へ大仏旗交付

なお現在までに正式に加盟し、全仏へ協力する大仏旗一旗が交付されることになり會議に先立ち授与式が行はれる予定である。

頒価 380円
送料 42円

朝比奈宗源著

改米雲水記



生粹の東洋的傳統に生きた一個の禪僧が人類の危機を前にして世界連邦政府と民族永遠の平和の悲願とをこめて歐米を巡礼した世紀の書、尙老師放談「禪」を収録。

四季社
振替東京二〇一九二

たのしい おぼん
「こどもの花まつり」にひきつづきフレイベル館がおくりする幼児のための宗教情操教育繪本
たのしい おぼん
四色刷りの明るく美しい繪本です。お子さんへの施本としてぜひご利用ください。
〔一部十圓〕
お申込は全日仏または左記へ。
キンダーブック 發行所
株式会社 フレイベル館
東京都千代田区神田小川町
振替東京一九六四〇番

青少年旅行運動実施策

文部省中央委發足す

既報の文部省を中心に全仏を始め各関係機関の協力で、計画されている青少年旅行運動は、其の後修学旅行途上の諸事件等統出の爲、極めて慎重策にいで、また旅行関係業者よりの諸運動も加わり、ために本年度は試みとして、各県庁内関係課を中心として七月廿日より八月廿五日迄行はれることとなつた。

同時に文部省内に之が中心推進機関として青少年旅行委が組織されが、全仏では既に砂父、日光地区等に之が協力の企画を進めて来た向は一広県庁側に移管し、今後は全国的に之がよき推進方法を取り、特に宿舍指定の寺院では、特別連絡方をとることとなつた。さしづめ七月二・三両日の全仏全国地区代表会議に周知の方法をとる予定である。

「縣下各地で講演會」

…新潟縣仏へ講師派遣

新潟県仏教会では、安藤会長を中心に果仏の活動を進める努力がなされて来たが、今度全県伝道を催すこととなり、全仏事務総局は新潟県仏の要望により、才一次講師として友松事務総長を派遣することになり、来る七月四・五・六・七の四日間、新潟、長岡、柏崎をはじめ各地で講演會が開かれることになつた。猶才二次伝道は、一ヶ月後に新たな講師派遣に依つて、県下隅なく行われることになつてゐる。

「愛知、岐阜両縣仏教会」

才二回全国教師大会に出席の佐々木理事長に随行した別所庶務部長は大会終了後、地方組織並事務連絡の件等につき愛知県仏教会の幹事である小野、村瀬師と種々協議を行ひ今後の緊密なる連絡協調についての打合せ依頼をなした。続いて岐阜県仏教会補会長と同県仏教会の件につき種々話合つたが近く開催の理事会に於て今後の態度が決定されるとの事につきその協力を依頼し、両県仏教会の活潑なる活動と発展を期待して同上打合せを終了した。

関西事務局

東本願寺へ移る

全仏の関西事務局は、これまで京西本願寺におかれていたが、去る六月七日の関西側理事会に於て、東本願寺へ移転することに決つた。なほ総長には、大谷派の末広愛邦師が就任し、次長部長も近く決定する模様である。

第二回全國佛教

學生大會開催

昨十月京都に於て「固き友情とよき未来の爲に」のスローガンの下に、前途多難なる仏教學生としての生き方を求め、學生生活の充実と友情の結束を約した意義ある大会は

其の歩を一步進めて、議題を仏教思想の現代的把握△仏教会の刷新と大衆化△平和的共存と我等學徒の生き方△及び学園の充実と學生生活の改善△其他の諸問題に関し、ひざをまじえて討議すべく、ここに才二回全国仏教學生大會を去る六月廿一・二・三の三日間、豊島公会堂、中労委會館で盛大に行はれた。参加校は実に数十校にのぼり、仏教諸団体も多数此れに参加し、お互いに超宗派的な理念の下に、我執をのりきつて当面の諸問題につき熱心に討議し合ひ、有意義なる結末を祈りつつ大會を終つた。

特に全日本仏教会ではこれを助成し、開会式には岩野組織局長が臨席した、各分科会へは高橋部長中原主事が出席した。

社會を明るくする

運動に協力しよう

犯罪のない明るい社會は、たゞ政府機関の施策のみでは見出し得ない其れには我々が形成して居る環境を整備、純化し且亦犯罪者の更生に對する温い理解と、力強い協力が必要である。今般才五回の「社會を明るくする運動」を、法務省主唱の下に七月一日より同卅一日迄の間、全国一円に亘り実施する。

なほ本運動は、中央と地方に実施委員會を設け、犯罪の未然防止、犯罪者の再生の徹底化の爲、テレビラジオ、新聞等報道關係其他の協力の下、一般に本運動の宣伝と関心を深める様呼びかける。尚、全日本仏教会でも、中央実施委員會の一団体として全面的に協力する。

英文佛敎百科辭典

編纂すすむ

セイロンのコテラワラ首相の親書が、去る六月十日全仏佐々木理事長あてに送られてきたが、之れに依ると、英文佛敎百科辭典の日本側編纂事業に要する費用の一部として、五千ポンド(邦貨約五百万円)を支出する旨が報ぜられたので、全仏では過般の常務理事会において、物心両面の積極的協力を決議すると共に、近く具體的に計画を追つて具體化に進む一方、関西側の編纂委員や宗派側の委員を選任して、着手される模様である。なほ六月二十七日午後二時より委員會がひらかれる。

第二回全國

敎誨師大會盛會

矯正施設に於ける宗教々誨師制度が改めて認識されんとしている現状に鑑み、去る三十、三十一日の両日全國敎誨師大會が名古屋市の東本願寺別院及び、名古屋刑務所に於て行われた。大會は感況を極め、決議事項として敎誨師の制度化の確立、宗教々誨師予算の増額、敎誨協議會の設置、敎誨師に保護師を兼任させる事、少年院に於ける敎誨の活潑化及び全國敎誨師連盟結成の促進化等が決議された。なほ佐々木理事長、別所部長が出席した。

東京佛敎團の

宗教法人指導講習

宗教法人法は施行以來三年を経過したが、今回更に法運用の完全を期すべく、仏敎團と都庁の共催による諸種事務の指導講習會を、都内全寺

院に對しすでに連日実施して居る。指導講習會の説明者は、都庁より四名と仏敎團から長岡、栗本の両氏が行つて居る。其の中心指導要項は、宗教法人法の解釈法人法規則に就いて備附せねばならぬ帳簿類に就いて税法上の特点不動産の永続登記に就いて等である。

「仏敎界に開放する

兩羽會館」

兩羽會館は三井晶史氏の経営で、集會場と宿泊所とを兼ねた寺院増信徒の會館である。今回創立一週年を迎えるに當り、広く仏敎界に開放する事になり、特に仏敎關係に一般より低額で奉仕する事になつたので、仏敎團體の利用を望んでいる。詳細は兩羽會館へ照会されたい。

本館東京都文京区表町伝通院前
電話小石川(92)六六九〇

編集後記

◆新年度の動きは、総きまりが二月近くおくれたので色々手違いもできたが漸く動きもハッキリしてきた◆さすがに國際的には問題突出。セイロンからの英文百科辭典や、ビルマ遺骨収集も大仕事でいづれも店開きに忙しい。◆夏を前に各地の伝道熱も大いに揚り七月に入つて新潟、秋田県仏の県内伝道に就いて各地で計画、講師派遣の交渉に忙しい。◆七月の全仏講習も新機軸を加へて前景が甚だよい。大きな思想運動にも乗りだす必要があることも大いに感じて居る。仏敎界は大きく動かねばならぬ、全國敎家の協力がいよ／＼望まれる